

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520116

研究課題名(和文) オルターナティブモダニズムとしてのメキシコ壁画運動の検証

研究課題名(英文) Investigation of Mexican Mural Movement as an Art of Alternative Modernism

研究代表者 加藤 薫 (KATO, KAORU)
神奈川大学・経営学部・教授

研究者番号：40291968

研究成果の概要(和文)：西欧中心に理論化されてきたモダン・アートに対抗する形で1920年代に提唱されたメキシコ壁画運動の実態を徹底検証することによって、西欧美術モダニズムとは脱アカデミズムという点では通底するものがあるにせよ、非西欧地域におけるモダニティの概念やモダナイゼーション過程には各国、各地域毎の固有の形態や歴史があり、脱—西欧モダニズム的性格があることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The investigation on the Mexican Mural Movement started in 1920s' started opposing to contemporary modern art movements of the western Europe proves that perception to modernity as well as the modernization process are different from those arts of western origin. This result may be characterized as an alternative means and expression of modernism although sharing the common feature as deconstructing art academism.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：モダニズム、メキシコ、壁画運動

1. 研究開始当初の背景：国際的な広がりを持つ現代美術の動向からポスト・モダニズム理論の限界が明らかにされ、西欧中心主義への懐疑からモダニズムの根本に遡って現代美術を再検証する動きが顕在化してきた。メキシコでは2007年のメキシコ壁画運動三巨匠の一人ディエゴ・リベラの没後50周年を機に反—西欧モダニズムの先駆的な事例として検証する研究が本格化していた。当該研究はその最先端の動向においつこうというものであった。

2. 研究の目的：メキシコ壁画運動のオルターナティブな美術モダニズムという性格を明らかにし、日本を含む非西欧社会におけるもう一つの現代美術理論の構築を目的とした。その過程では現代美術の脱—西欧中心主義が可能かという課題に取り組むことも必須であった。またメキシコ壁画運動理論や実践の普遍性を実証するのも目的の一つとなった。

3. 研究の方法：移動不可能な壁画研究においては日本での文献調査に限界があった。従

って研究方法では現地調査が必須となった。この設定の下に三つのフェーズを構想した。

- (1) フェーズ I=ナショナリズムや土着性といったバノキュラーな歴史、政治、文化伝統との相関関係の検証。
- (2) フェーズ II=中南米で普遍化される「革命の美術」と、美術界における「美術の革命」という認識の交差領域の検証。
- (3) オルターナティブ・モダニズム概念適用の妥当性をモダニティ、モダナイゼーションといった指標から検証。

4. 研究成果

- (1) この分野への日本人研究者の参入は稀有で国際的にも評価され、欧文論文発表、講演依頼などがきている。またNHK・TV番組制作にも貢献。
- (2) アジア、アフリカなどの現代美術研究成果と付き合わせるによりオルターナティブモダニズムの普遍性や体系化が可能となった。
- (3) メキシコ壁画運動が当初より脱西欧モダニズム志向を内包していたことが確認された一方、時代的、思想的、政治的制約という限界も持っていたことを検証し、21世紀の非西欧社会における現代美術の展望を明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①『ディエゴ・リベラに関する50の質問』、神奈川大学経営学部文学研究会年報「麒麟」16号収録、査読無し、2007年、24-32頁。
- ② "Acercamiento a la influencia del movimiento muralista mexicano en el arte contemporaneo de Japon", CRONICAS, Instituto de Investigaciones Esteticas, UNAM, examen, 2007, pp.237-264.
- ③『日本現代美術におけるメキシコ壁画運動の影響について』、神奈川大学経営学部文学研究会年報「麒麟」17号収録、査読無し、2008年、41-58頁。
- ④『マルベルデ考』、神奈川大学経営学部文学研究会年報「麒麟」19号収録、査読無し、2010年、119-136頁。

[図書] (計8件)

- ①『メキシコ絵画の楽しみ方と、日本の画家との交流について』、『作品解説』、「メキシコ20世紀絵画展」美術展カタログ収録、NHKプロモーション/世田谷美術館、2009年7月、4-8頁、10-24頁。
- ②『民衆メディアの誕生と発信するポサダ』、塚田美紀・野田尚稔編「ホセ・グウアダルー

ペ・ポサダ」収録、世田谷美術館、2009年7月、34-42頁。

- ③『癒しの死神を視る—サンタ・ムエルテの凶像学序説—』、加藤隆浩編「ラテンアメリカの民衆文化」収録、行路社、2009年3月、85-109頁。

- ④『凶像から見えるメキシコ』、畑恵子・山崎眞次編著「ラテンアメリカ世界のことばと文化」収録、成文堂、2009年7月、78-100頁。

- ⑤『メキシコ壁画運動』、NPO法人世界遺産アカデミー編「世界遺産検定公式ガイド300」収録、毎日コミュニケーションズ、2010年4月、182-183頁

- ⑥『民衆の欲望を反映した色の記号性について』、三星宗雄編著「世界の色の記号—自然・言語・文化の諸相」収録、御茶ノ水書房、2011年3月、275-298頁。

- ⑦「ディエゴ・リベラの生涯と壁画」、岩波書店、2011年3月。

- ⑧『ディエゴ・リベラの人生遍歴と美術モダニズムへの挑戦』、野谷文昭編著「メキシコの美の巨星たち」収録、東京堂出版、2011年4月、179-209頁

[その他]

(1) 講演会

- ①「ディエゴ・リベラの生涯と作品」、国際交流基金第1期異文化理解講座<メキシコの美の巨星たち、美術、建築、写真、映画>、第9回、2008年12月8日。

- ②「メキシコ絵画の魅力」、世田谷区立世田谷美術館講堂、2009年7月11日。

- ③「メキシコ絵画の魅力」、調布市立市民ホール、2009年7月14日。

- ④「メキシコ絵画の魅力」、町田市立図書館、2009年7月18日。

- ⑤「メキシコ絵画の魅力」、横浜市緑区区民文化センター、2009年7月21日。

- ⑥「凶像から見えるメキシコ」、早稲田大学社会学部、2010年7月9日

(2) TV番組

- ① NHK 迷宮美術館#120「街角パブリックアート特集」、2007年4月9日放映、解説出演。

- ② NHK 新日曜美術館「アイデンティティを求めて 20世紀メキシコ美術」、2009年8月2日放映、企画コンサルタント。

6. 研究組織

(1) 研究代表者：

加藤 薫 (KATO KAORU)

神奈川大学・経営学部・教授

研究者番号：40291968